

新たな夢へ米留学

【東京支社】東日本大震災で両親、姉、祖母の家族全員を失った釜石市箱崎町出身の小川彩加さん(18)は、24日から米国に留学する。日米の官民による「トモダチ構想」の一環で実現した。一人ぼっちになり、ぼうぜんとする小川さんを支えたのはルース駐日米大使ら数多くの人の出会いだった。「運命のように奇跡的な人々のつながりがあった」。一人一人に感謝し、新たな夢に向かう。

家族失った 小川さん(釜石出身)

東京・渋谷のビルのさんは「チャンスを生一室。被災した若者をかそうというオーラが教育面から支援する」がある」と評する。

ヨンドトゥモロー(東京)の事業で、英語研修に励む小川さんの笑顔がある。昨年3月11日。大槌

留学先はミシガン州学校が午前中で終わるグレナーバーの全寮制の高校。1年間英語を勉強し、ファッションデザイナーを目指す。午後2時46分、激しい揺れの後、美千代さん

トモダチ構想で実現 出会い支えに生きる



米国出発を前に、阪本麻友さんから英語の指導を受ける小川彩加さん(左)＝東京・渋谷

坂道の途中で、黒い山道を登った。人壁のような波が背後に迫ってきた。津波だ。は見えない。大勢の美千代さんの一言が、母の言葉を聞く最後と

震えながら歩き、2人で、尊敬していた。涙得たチャンスがある。の名を叫んだ。釜石の家は流されていた。避難所を経て親類宅に身を寄せ、姉美慶さんが亡くなったことを知った。

遺体安置所で対面した美慶さんは、生前のままのきれいな顔だった。弱者に思いやりがあった20歳の優しい姉

何週間も遺体安置所を回り、他の家族を捜す手紙を携えて米国大使館でルース大使と面会し、夢を直接伝えられた。

トモダチ構想とビヨンドトゥモローの共同による高校留学プログラムに合格。留学が実現するまでに多くの人が介在している。

「なぜ自分だけ助かったんだろう」。自問自答する日々の中、元気がつけられたのは昨年5月にルース大使が被災地の児童生徒を公邸に招いたイベントだった。ファンの歌手ジャスティン・ビーバーさんと話げできると実感する。

「私がたくさんの方からきつかけやチャンスをもらったように、私も与える側の人間になりたい」。今春高校を卒業し、4月、ルース大使の公邸で決意を披露した。亡き家族の思いを胸に、夢をかなえることが応援してくれる人への恩返しと信じている。

◆恩返しを誓う

6月、ルース大使が大槌高を訪れ、一緒に炊き出しをした。大使は「将来どうするの」と案じてくれた。漠然と就職するつもりだったが、今後の生き方を考えるようになった。生き残ったからこそ